

低コスト化造林現地検討会の開催

5 月 28 日、高知県香美市物部町杉ノ熊山国有林（高知中部森林管理署管内）で現地検討会が開催されました。【詳細 2 頁】



現地検討会の様子

低コスト化造林現地検討会を開催

〈森林技術・支援センター〉

地球温暖化防止等の観点から、今後は間伐に加え、主伐・再造林を推進していく必要があります、そのためには造林の低コスト化を図る

ことが重要です。

こうした中、期待されているのが、活着・生育が良く、時期を選ばず植栽でき、伐採と植林の一貫的な作業を可能とするコンテナ苗で

あり、これを用いることにより地拵えや下刈等を含めたトータルの造林コスト低減が可能となります。

しかし、高知県ではコンテナ苗の生産はまだ僅かであり、生産の増強が課題となっています。

このため、四国森林管理局では、種苗業者等へ生

参加者からの質問の様子



産の増強を要請するとともに、コンテナ苗の普及に向け本年三月、試験・展示用として高知中部森林管理署等に植栽を行いました。

五月二十八日、この高知中部署杉ノ熊山国有林の植栽地をフィールドとして、高知県と連携し、森林総合研究所や種苗業者、近隣の市

町村や森林組合、林業事業体など六〇余名の関係者が参加して現地検討会を開催しました。

当日は、鶴園森林整備部長から「検討会では、育林事業の低コスト化に向けた情報の共有化を図り、今後の事業に活かしていきたい。」との挨拶後、二班にわかれて現地視察を行

いました。現地にはコンテナ苗のほか、昨年度末に四国で初めてとなるエリートツリー(第二世代の精英樹)も植栽されており、岡山県にある森林総合研究所林木育種センター関西育種場の久保田課長からその特徴等について説明をいただきました。

その後行われた意見交換では、「コンテナ苗やエリートツリーの増産やこれを用いた植林の拡大が必要。」「コンテナ苗生産施設の整備や安定的な購入に向けた国や県の支援が必要。」など、各々の立場から貴重な意見が出され、関係者間で認識の共有が図られるなど大変有意義な現地検討会となりました。

冒頭の挨拶を行う

鶴園森林整備部長



エリートツリー

※活着とは山に植栽した苗木がその後、正常に生育していること。(枯れていないこと)

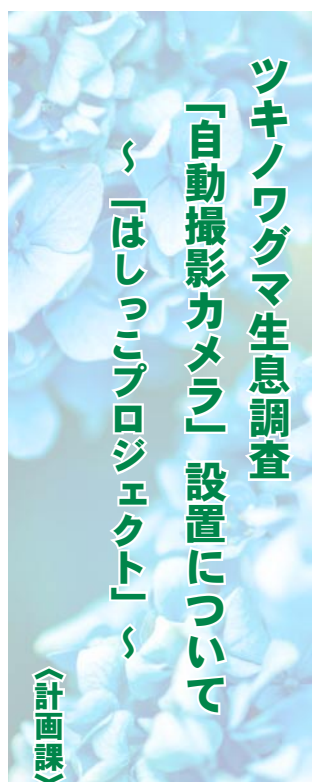
コンテナ苗と普通苗の根系の比較



普通苗



コンテナ苗



四国森林管理局では、「四国山地緑の回廊」を対象として、野生生物の生息実態等の把握を目的とした調査を実施しており、これまでの「緑の回廊」モニタリング調査では、四国においてその絶滅が危惧されているツキノワグマの生息を確認してきているところで、(昨年度は親子グマを撮影)。

今年度は、ツキノワグマのおおまかな生息分布域(外縁)を把握するため、四国のツキノワグマの生息

ワグマの四国山地における大まかな生息分布域の絞り込みが見込まれるところであり、生息個体ごとの行動範囲の把握など、より詳細な調査への活用が期待されています。

また、当局においては、調査結果等を踏まえ、保護林や緑の回廊の拡充を検討するとともに、主要な行動圏に含まれる人工林については、将来的に天然林に誘導するなど、ツキノワグマの生息環境の改善に取り組むことを検討していきたいと考えています。

※自動撮影カメラ設置当日は、NHK高知放送局、徳島新聞社等の報道機関に同行頂き、当日の取組の様子

はテレビや新聞等でも紹介されました。



自動撮影カメラの撮影モード設定の様子



自動撮影カメラ設置状況

第一回技術開発委員会



技術開発課題に対して貴重な意見が活発に

「第一回技術開発委員会」を開催

〈森林技術・支援センター〉

六月一七日、今年度第一回目の技術開発委員会を開催しました。

この委員会は、六月一〇日に行った、局内委員による「技術開発連絡会議」を

踏まえ開催したもので、主

に外部委員（森林生態学、林木育種、遺伝資源、森林管理経営等の有識者等）で構成されています。

今回の審議課題は、

- ① 保育作業の省力化による森林育成技術の確立
- ② 囲いわなによる効率的なニホンジカ（以下「シカ」）捕獲試験
- ③ 下刈省略化によるシカ食害低減効果の検証
- ④ エリートツリー植栽による下刈省力化試験及びシカ食害防止クリップ効果の検証

の四課題について審議をお願いし、意見等を伺いました。

各委員から出された主な意見は、以下のとおりです。

課題②では

・愛媛県内でもシカ食害被害は増えており、一つの防止対策としては有効な技術開発であり、評価できる。

・非常に興味があり、社有林でも使用してみたいので、囲いわなの設置方法等を簡単に説明したマニュアルを作成して頂きたい。

・囲いわなの購入方法を教えて頂きたい。

課題③では、

・低コストな造林に繋がる技術開発は大いに期待している。

・エリートツリー、コンテ

ナ苗、大苗なども併せた試験についても、検討をお願いしたい。

・普通苗に比べコンテナ苗は、一本当たりの単価が高くて重いのが実態で、普及させるためにはどのような方法（作業システムの改善等）でコストを下げて行くかが大きな課題であり、積極的な情報交換をお願いしたい。

課題④では

・シカ食害対策として一定の成果が出れば有効な方法となるので期待したい。

・大苗、エリートツリーにも、シカ食害防止クリップを装着して比較検証を行ったらどうか。

・今の試験地で成果が出なくても直ぐに止めるのではなく、条件等を色々変えて

試験を行い検証結果を集約して頂きたい。

・シカ食害被害に対しては、苗木を早く成長させることが有効であり、大苗でのシカ食害防止クリップ試験も検討をお願いしたい。

森林技術・支援センターではこれらの貴重な意見等を踏まえて、今後の技術開発・普及に活かして行くこととしています。



シカ食害防止クリップ No.1